

## 実太り上々、品質も良い さつまの南高梅

6月1日、町特産品の南高梅が実りの時期を迎え出荷式が佐志の集荷場でありました。

出荷式で、梅振興会の神園和昭会長は「今年は晩霜被害で収量こそ落ちましたが、実は大きく質もよいものができました。健康食品としても需要がある梅です。市場からの信頼を得て、本町が全国に誇れる梅の発信地となるよう頑張ろう」とあいさつされました。

青梅は、6月中旬まで県内外のAコープや生協、イオンなどの量販店や市場に出荷され、完熟梅は7月上旬まで薩摩農産物加工センターで集荷されます。6月1日から3日までは、鹿児島市のサンライフパーク鹿児島ふるさと物産館で「さつま町特産品まつり」が開催され、井上町長と山下副町長、永福さつま農協組合長も駆け付け、さつまの南高梅をPRしました。



テープカットで南高梅の出発を祝う関係者



南高梅を運び込む生産者



梅の収穫体験を楽しむ参加者

### 第4回地域まるごと産直交流会

6月2日、薩摩地区で「第4回地域まるごと産直交流会」が行われました。

これは、JAさつま、生活協同組合コープかごしまと県経済連が「地域産直・協同組合間の連携」という新しいスタイルで、南高梅やお茶、米、豚の生産者と消費者が交流しようと実施されているものです。

当日は、生協コープ鹿児島組合員200人が中津川の梅園で青梅の収穫体験をしました。収穫体験後の昼食では、町内で生産された豚と野菜を使った豚汁と狩宿米を使ったおにぎりや南高梅のうめぼし、さつま町内産新茶がふるまわれ、参加者は旬のさつまの味を満喫していました。また、生産者との意見交換会も行われ、消費者との交流が図られました。

### さつま町茶生産協会 新茶を贈呈

6月7日、さつま町茶生産協会（別府秀吉会長他25人）の理事5人が役場を訪れ、PRを兼ねて新茶を贈呈されました。

別府会長は「今年は晩霜被害で収量は落ちましたが、生産者の努力により、味、香りとともにおいしく仕上がりました。町のPRのために役立てていただければ幸いです」とあいさつされました。

贈呈された新茶は、会員が新茶を1kgずつ持ち寄ってブレンドした特製茶で、山下副町長が感謝の意を込めて受け取りました。



山下副町長へ新茶を贈呈する別府秀吉会長（右）